

明治ホールディングス株式会社 IR説明会

2026年7月14日

1. 基本情報

2. 成長戦略

3. 株主還元

● 100年を超える「meijiらしい健康価値」を広く社会へ

創業の精神「栄養報国」

(栄養で社会に貢献する)



相馬 半治

1910 1920 1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010

菓子

1916

明治製菓

1926
明治ミルクチョコレート発売



医薬品

1946 ペニシリン製造開始



1975
きのこの山発売



1980
ザバスシリーズ発売



1998
チョコレート効果発売



2011
食品事業会社
「株式会社 明治」発足

2009年
経営統合 再編

食品セグメント

医薬品セグメント

乳業

1917

明治乳業

1921
明治メリーミルク発売

1950
明治ハネーヨーグルト発売



1973
明治ブルガリアヨーグルト発売



1994 抗生物質メイアクト発売



1995
メイバランス発売



2009
明治プロビオヨーグルトR-1発売

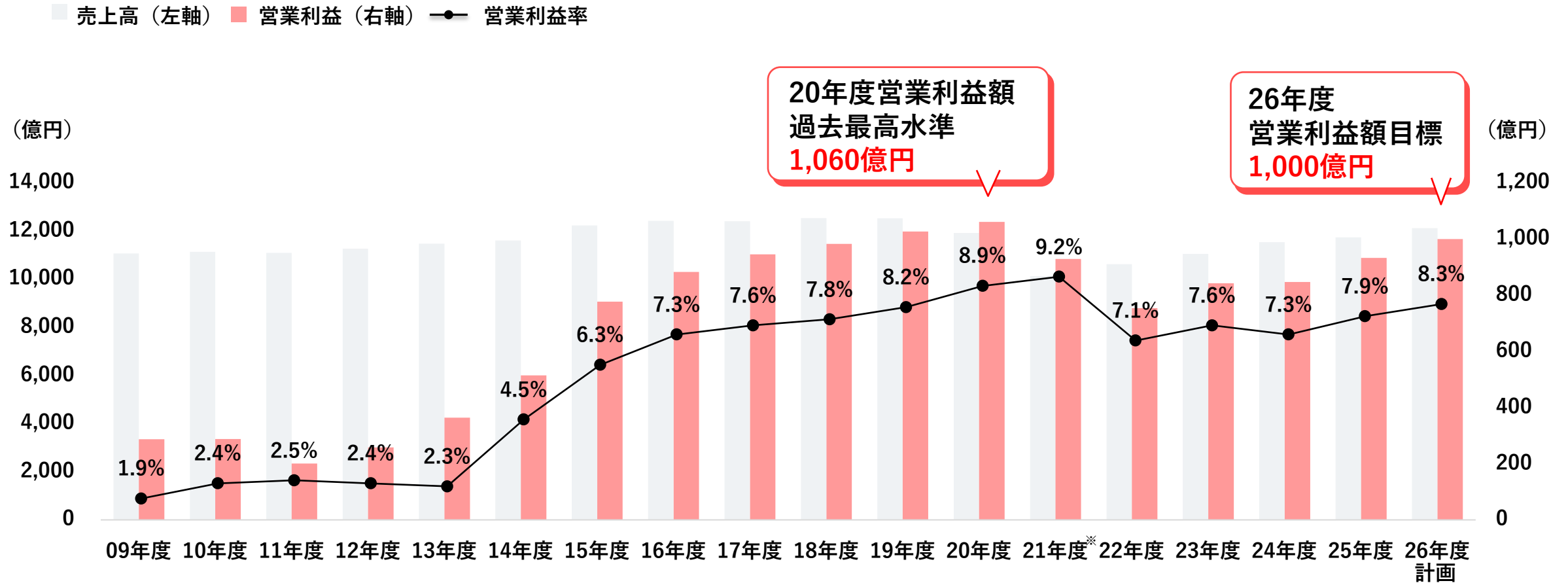


2011
医薬品事業会社
Meiji Seika ファルマ株式会社発足

2018
KMバイオリジクス株式会社を
グループ会社化しワクチン事業に参入

業績推移

● 経営統合・事業再編を経て、確固たる収益基盤を構築



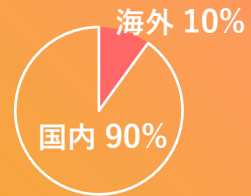
※ 2021年度より「収益認識に関する会計基準*2」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を適用しています

事業ポートフォリオ

● 「食」と「薬」にまたがる、世界でも稀有な事業体

食品セグメント

海外売上高構成比



2025.4.1～2026.3.31

売上高 9,428億円 営業利益 687億円 2025.4.1～2026.3.31

デイリー (売上比率29%)

売上高 2,726億円
営業利益 292億円

カカオ (20%)

売上高 1,868億円
営業利益 152億円

ニュートリション(13%)

売上高 1,188億円
営業利益 135億円

フードソリューション(21%)

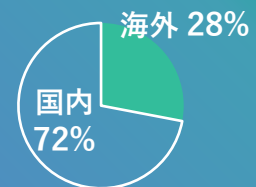
売上高 2,036億円
営業利益 95億円

その他 (17%)

売上高
1,608億円
営業利益
11億円

医薬品セグメント

海外売上高構成比



2025.4.1～2026.3.31

売上高 2,322億円 営業利益 304億円 2025.4.1～2026.3.31

国内 (売上比率50%)

感染症領域 免疫領域 中枢神経系領域 ジェネリック医薬品
売上高 1,166億円 営業利益 157億円

海外 (28%)



海外自販

売上高 648億円
営業利益 103億円

海外CMO/CDMO

ワクチン・動物薬 (22%)

ワクチン 動物薬
売上高 507億円
営業利益 43億円

食品セグメントの主要製品 国内市場シェア

デイリー事業



ヨーグルト
34.2%
(2025年度)



市場規模
5,028億円



牛乳類
17.3%
(2025年度)



市場規模
4,581億円

データ元：2025年度インテージ社SRI+

カカオ事業



チョコレート
26.4%
(2025年度)



市場規模
4,791億円



グミ
12.6%
(2025年度)



市場規模
1,331億円

データ元：2025年度インテージ社SRI+

ニュートリション事業



プロテイン
35.9%
(2025年)



市場規模
1,438億円

データ元：2025年 当社調べ



流動食（市販向け除く）
30.8%
(2025年)



市場規模
1,115億円

データ元：2025年度 当社調べ

フードソリューション事業



チーズ
9.8%
(2025年度)



市場規模
2,341億円

データ元：2025年度インテージ社SRI+



（業務用）
生クリーム類
25.7%
(2023年)



市場規模
1,299億円

データ元：富士経済 業務用食品マーケティング便覧2024

医薬品セグメントの主要製品 国内市場シェアと海外事業の内容

国内事業



全身性抗菌剤
23.8%
(2025年度)



市場規模
2,017億円

Copyright © 2026 IQVIA.
Source: Calculated based on JPM 2026
Mar MAT Market scope as defined
by Meiji Seika Pharma
*Reprinted with permission

ワクチン・動物薬事業



インフルエンザワクチン
37.2%
(2025年度)



市場規模
723億円

Copyright © 2026 IQVIA.
Source: Calculated based on JPM 2026
Mar MAT Market scope as defined
by Meiji Seika Pharma
*Reprinted with permission

海外事業

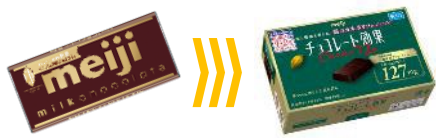
- インドネシア、タイ、中国、スペイン、インドなどの
現地子会社を拠点にグローバルな生産体制、販売網を整備



明治グループの強み

- お客様の気持ちに寄り添った製品開発、時代を先取りした付加価値の訴求で新市場を創出

チョコレート



おいしさ・楽しさに加えて、
チョコレートの健康機能に注目

機能性ヨーグルト



R-1乳酸菌EPSを2倍配合し、
機能性を強化

スポーツプロテイン



ドリンクタイプを発売し、
気軽なたんぱく質の摂取を実現

牛乳



生乳本来のおいしさを
家庭で味わう技術の開発

乳幼児ミルク



キューブや液体ミルクの
新形態で利便性向上

抗菌薬



1946年にペニシリンの培養開始
抗菌薬のトップメーカーとして、
医療に不可欠な抗菌薬の多くを供給

本日の内容

1. 基本情報

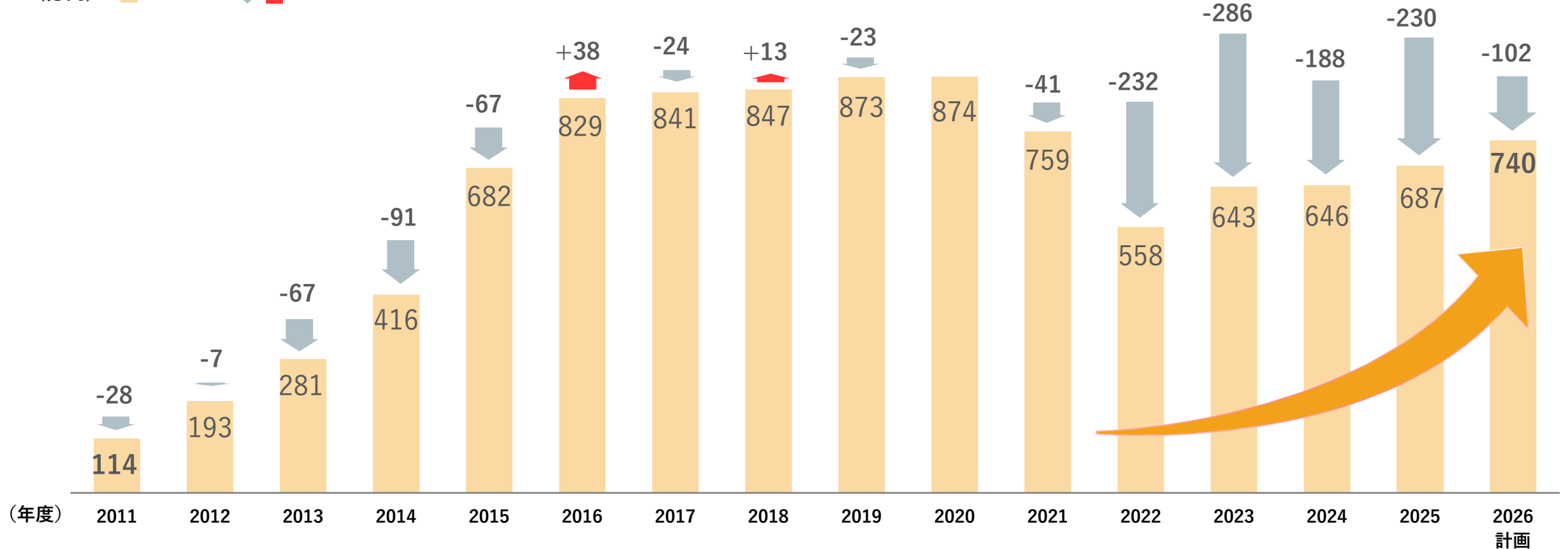
2. 成長戦略

3. 株主還元

食品 | 営業利益の推移

● 原材料コストアップを克服して、再び成長軌道へ

(億円) ■ 営業利益 ▼ 原材料価格影響 ▲ 原材料価格影響



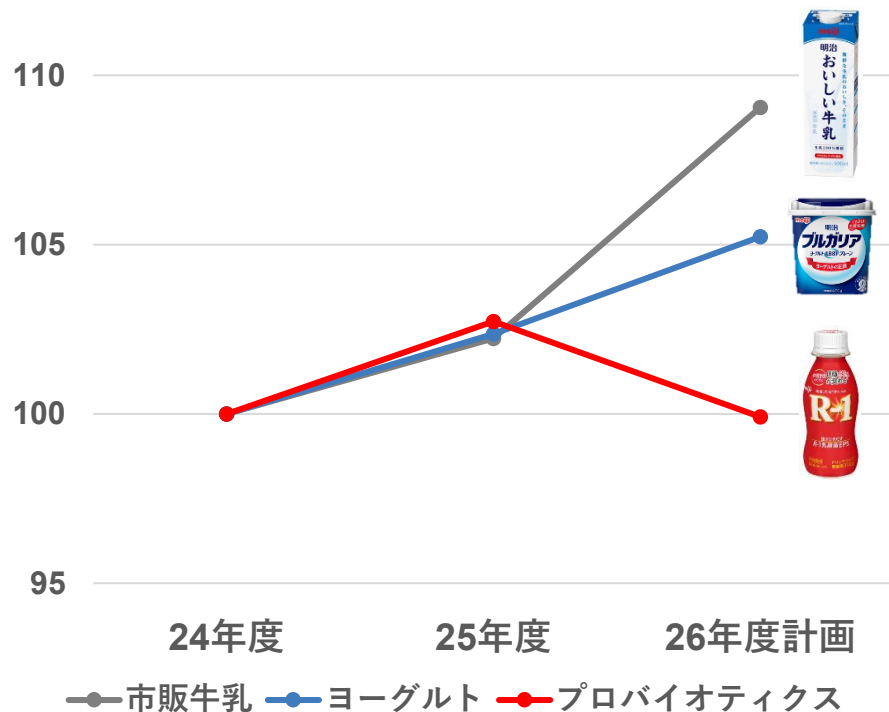
食品 | 国内：デリー事業

● ブランド力を強みとしてさらなる売上拡大を図る

国内シェアNo.1製品群も伸長中

● 主力品群の売上高

24年度実績を100とした場合



ラインアップを拡充し、売上拡大



◀ 「明治おいしいミルクコーヒー」
 (400ml: 24年10月8日発売)
 (200ml: 25年12月2日発売)



「明治おいしいミルク紅茶」
 (400ml: 26年3月31日発売)
 (200ml: 26年4月21日発売) ▶



◀ 「明治ブルガリアのむヨーグルトLB81」シリーズ
 (ONE SHOT・120g) 26年4月7日 全国発売

「明治ヘモグロビンA1c対策ヨーグルト」
 25年10月14日発売 ▶



食品 | 国内：デリー事業 生産体制の最適化に着手

- 神奈川：新たな生産技術を導入し、賞味期限の延長や新形態商品の生産を計画
- 北海道：新たな付加価値原料の生産により、今までにない商品・素材を提供

生産中止工場

神奈川工場
(2027年3月予定)

東北工場
(2025年11月)

戸田工場
(2027年7月予定)

神奈川新工場

- 稼働予定：2027年3月
- 投資額：約400億円
- 生産品目：プレーンヨーグルト、
ドリンクヨーグルトなど



生産中止工場

西春別工場
(2027年3月予定)

本別工場
(2027年9月予定)

北海道新工場

- 稼働予定：2027年3月
- 投資額：約480億円
- 生産品目：脱脂濃縮乳、脱脂粉乳、
乳たんぱく質、クリーム、バターなど



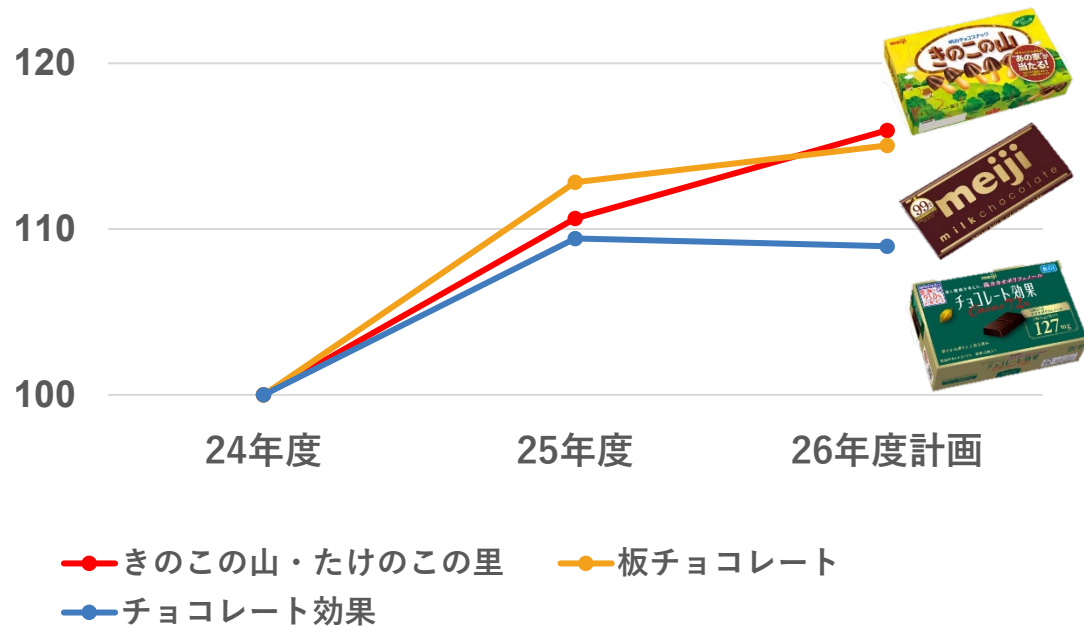
食品 | 国内：カカオ事業

● ブランド力を強みとして国内でさらなる売上拡大・新市場創造に挑戦

チョコレートが好調！

● チョコレートの売上高

24年度実績を100とした場合



新たな価値を持つ商品の上市・育成強化



◀ 「生のときしっとりミルク」
(25年10月7日再発売/
26年1月13日全国拡大)

「FRUBI by果汁グミ」
26年3月24日 全国発売 ▶



今年9月で100周年！

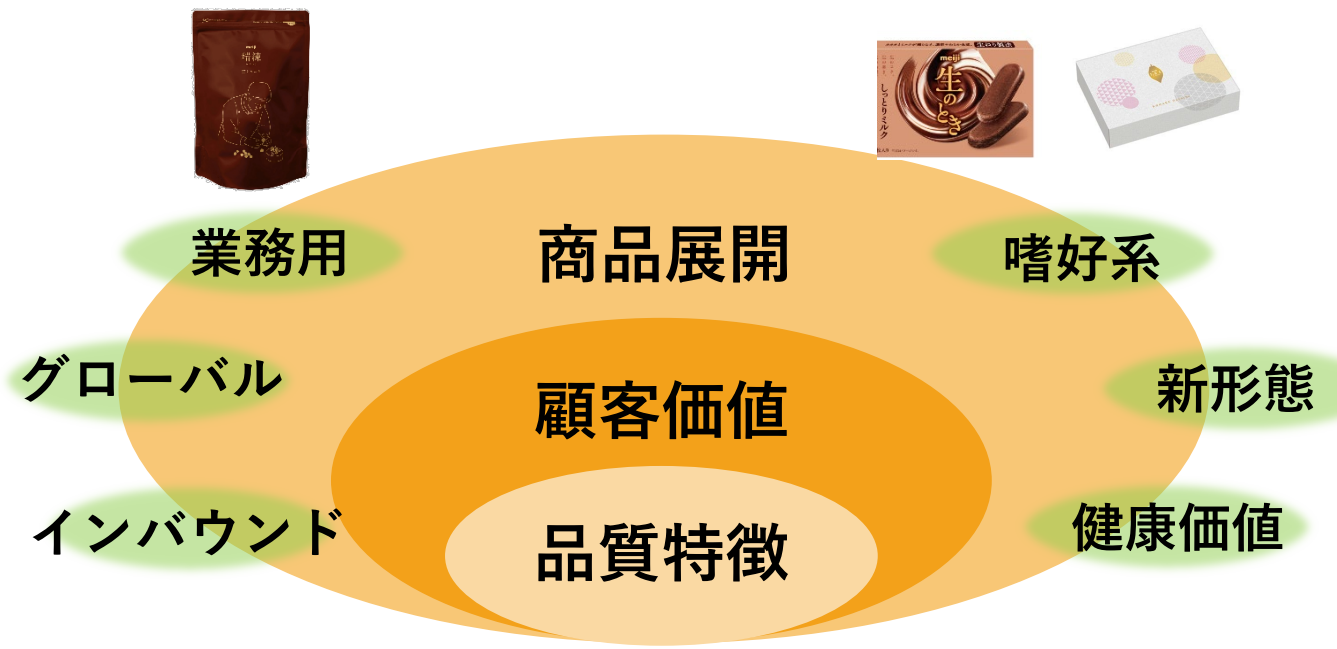
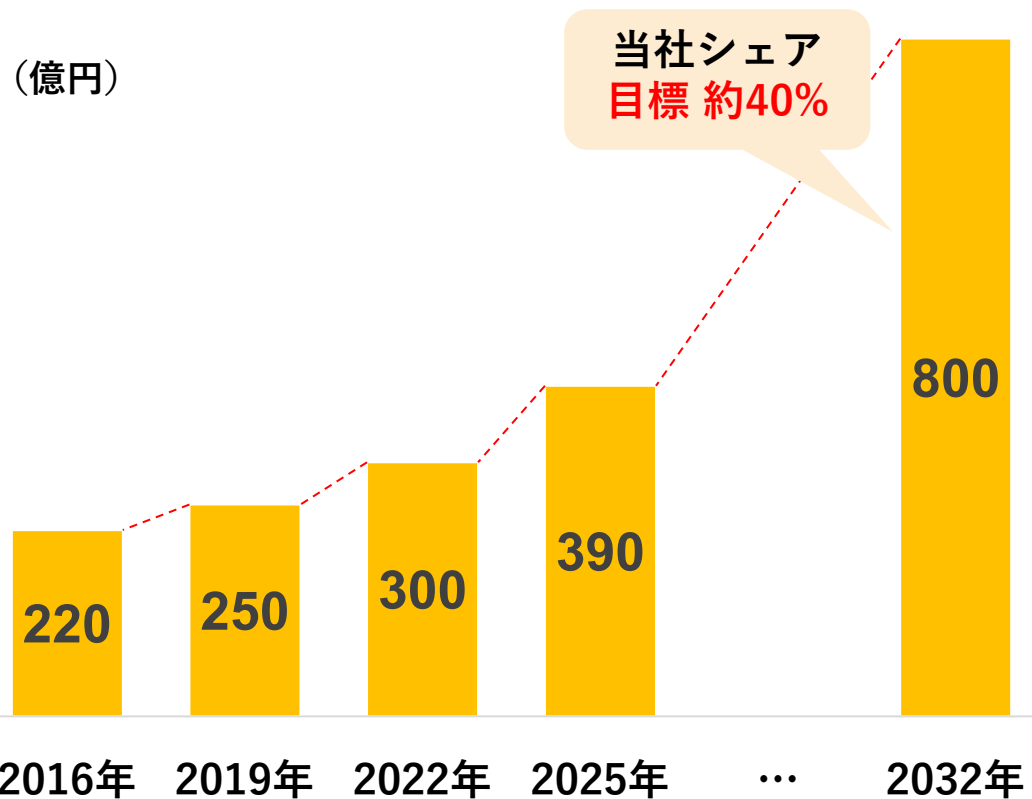


食品 | 国内：カカオ事業 独自技術「生ねり製法」による新市場創造

- 「生食感チョコ」市場を創造し、チョコレート国内市場全体の拡大を目指す

- 国内生ねり・ガナッシュ・生チョコ市場予測 (ANKAデータより当社推計)

- 生ねり製法での市場創造の広がり



食品 | カカオに関するサステナビリティと事業の融合

- 原産国サポートやカカオの価値最大化により持続可能なカカオ調達を目指す

主なサステナビリティ活動

➤ メイジ・カカオ・サポート



- 2006年より産地支援を開始し、現在9カ国で展開中
- それぞれのカカオ産地が抱える課題に合わせた当社独自の支援

森林保護

カカオ栽培支援

教育支援

生活支援

➤ ひらけ、カカオ。



- カカオの可能性を最大化するサステナブルアクション
- 2022年より、カカオに関わるすべての人の幸せを目指し活動を開始

<活動例> 未活用部位の活用

カカオ豆の皮を
カカオバイオプラに
アップサイクル！！



生分解性の
カカオバイオプラスチック

カカオハスクを使用した
チョコ型（ハスクトレイ）



遊べる！学べる！
サステナブルきのこの山

食品 | 新カカオバリューチェーンへの挑戦

● 生産国との関係を強化し、カカオの安定調達を強固なものにする

メキシコ・エクアドルへの訪問（2026年1月）

訪問の主な目的

- カカオバイオプラの現地ビジネス化
- 現地カカオ産業との関係強化
- 現地社会課題への明治アセット活用 など



メキシコ

農務省、環境省、保健省の要人と面談

<寄せられた期待>

- ・ 農業廃棄物のバイオプラ化と現地生産
- ・ 機能性食品、栄養食品導入による肥満改善



フリオ・ベルデゲ農務大臣と面談



エクアドル

大統領をはじめとした首脳陣と面談

<寄せられた期待>

- ・ 農業廃棄物、梱包資材へのバイオプラ活用
- ・ 乳幼児栄養失調対策への貢献
- ・ 農村エリアの感染症対策



ダニエル・ノボア大統領と面談



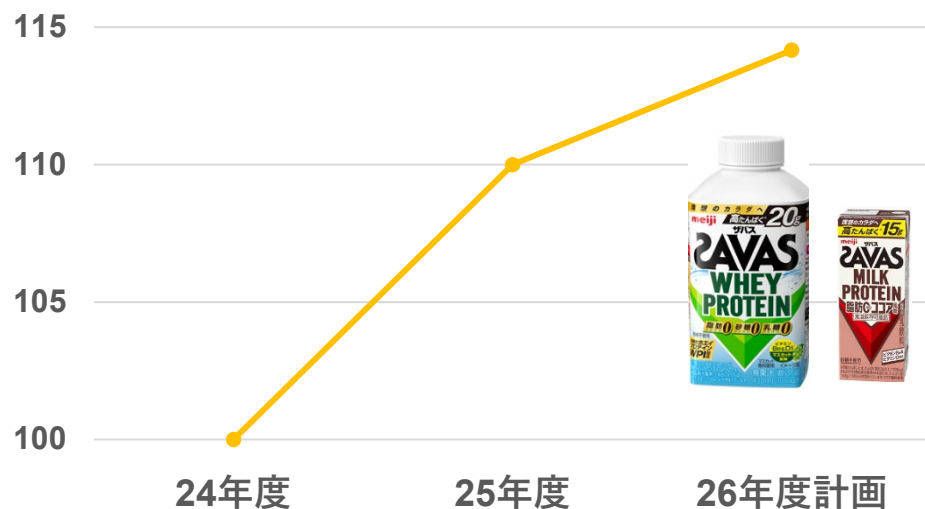
マリア・ホセ・ピント副大統領と面談

● 明治の技術力を武器に市場に合致する商品を展開

手軽にタンパク質摂取！

● ザバスミルクの売上高

24年度実績を100とした場合



独自価値を強化する商品リニューアル



◀ 「ザバス BIOPRO」シリーズ
26年3月23日発売
独自の「プロテインの力を助ける乳酸菌」配合

「明治ほほえみ」25年11月25日発売▶
日本で初めてビフィズス菌を配合



豊富な流動食ラインアップで高齢化社会をサポート

● 在宅栄養

● 病院栄養



明治メイバランス
Miniカップ



明治MICHITAS
カップ



明治インスロー



明治メイバランス
1.0



明治YH Fast-S
300K

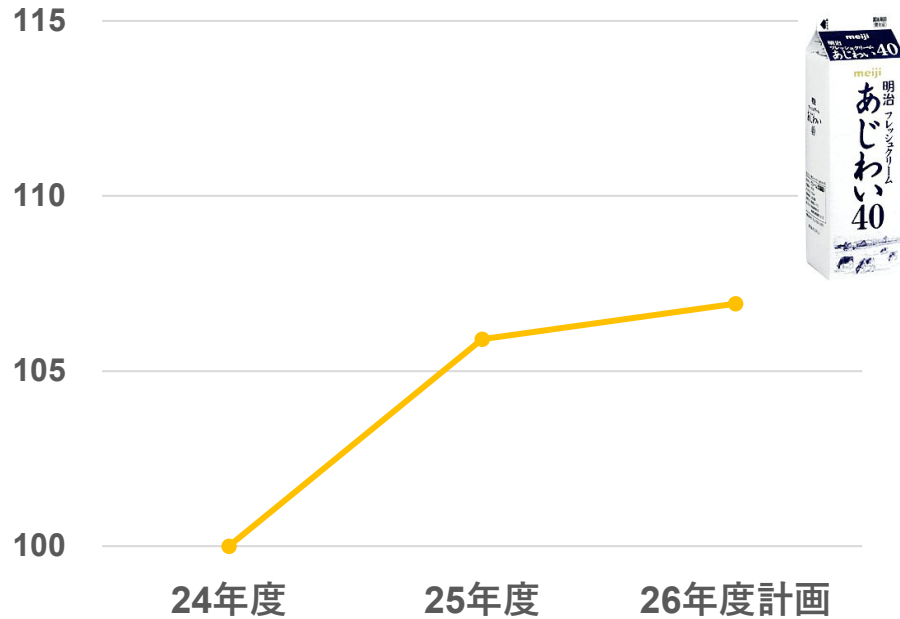
食品 | 国内：フードソリューション事業

● 強みを生かし、顧客ニーズに合わせた商品を展開

BtoB事業が好調

● BtoBの売上高

24年度実績を100とした場合



新たな価値を持つ商品の上市・育成強化



◀ [BtoB] ルミエージュ

カロリーオフとホイップ時間短縮を実現した
コンパウンドクリーム

[BtoB] 瑞練（みずねり）▶

生チョコなのに、常温で長期保存が可能
おいしさと利便性をかなえる画期的な商品

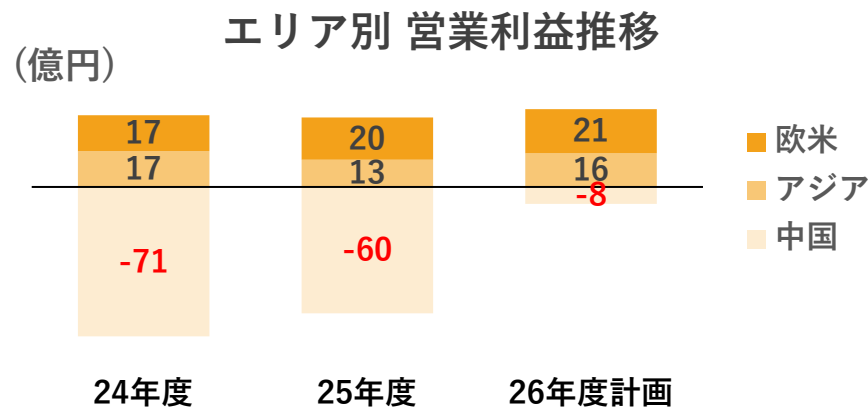
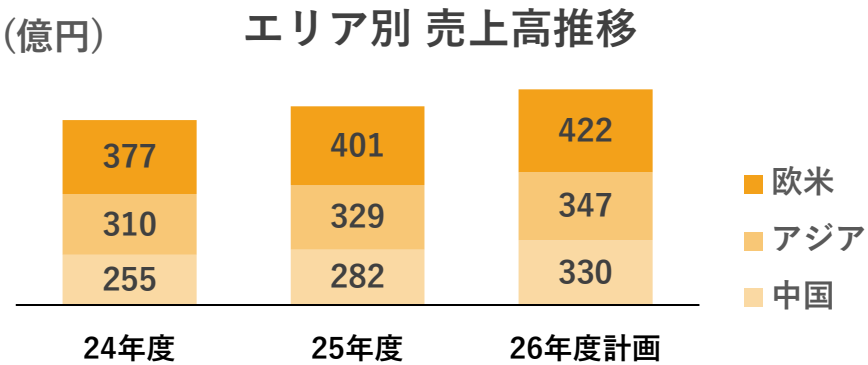


BtoB領域をさらに開拓するため提案力強化中！



◀ 「明治アプリケーションセンター」
製造ラインに準じた設備を保有。
お客さまの課題解決やニーズに沿った
商品を提案・開発が可能

● 各エリアの市場特性に応じた事業展開で、持続的成長を目指す



展開エリア



エリア	展開カテゴリー
北米	カカオ
アジア	カカオ、ニュートリション、デイリー
中国	デイリー、カカオ、BtoB、アイスクリーム
欧州	ニュートリション

食品 | 海外：中国事業は黒字化に向けて前進

- 中国事業の構造改革を断行、25年度末に減損損失を計上し収益改善へ
- 今後は好調な力カ才事業に経営資源を集中し、利益拡大へ

中国事業 営業利益推移



中国力カ才事業 売上高年平均成長率

➤ 23年度-26年度計画



食品 | 海外：菓子グローバルブランドを核とした拡大

- 競争優位性があり、利益成長が期待できる菓子領域に経営資源を集中

菓子グローバルブランドの生産拠点

	日本	米国	シンガポール	中国	インドネシア
ハローパンダ		●	●	●	●
チョコルームス (きのこの山)	●		●		
チョコレート効果	●				
ナッツ	●			●	
メルティーキッス	●			●	
ヤンヤン			●	●	●

➤ グローバルブランド例

- ハローパンダ



米国版



シンガポール版

- チョコルームス (きのこの山)



日本版



米国版

食品 | 海外：米国を中心にハローパンダの売上拡大中

- 需要に応じた設備投資を実施し、持続的な成長を見込む

➤ ハローパンダ展開国・エリア数

30以上

➤ 年平均成長率（20年度-26年度計画）

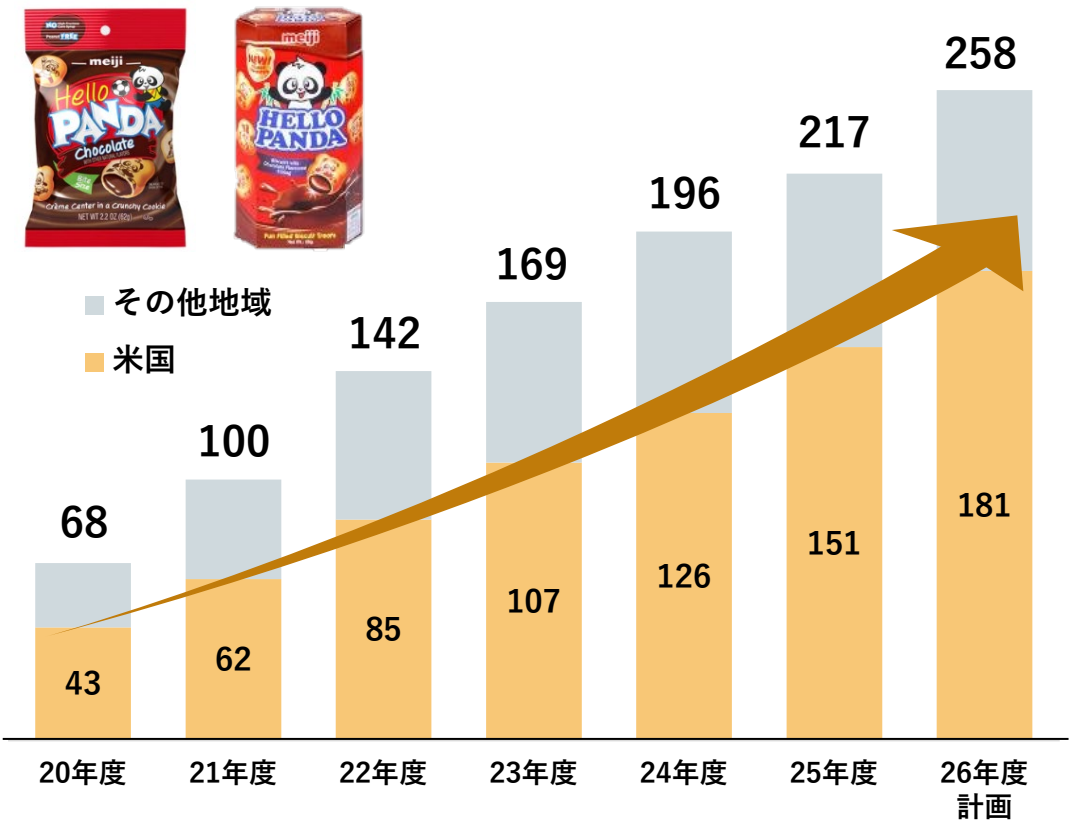
海外売上高

+約**25**%

米国売上高

+約**27**%

ハローパンダ海外売上高（億円）※

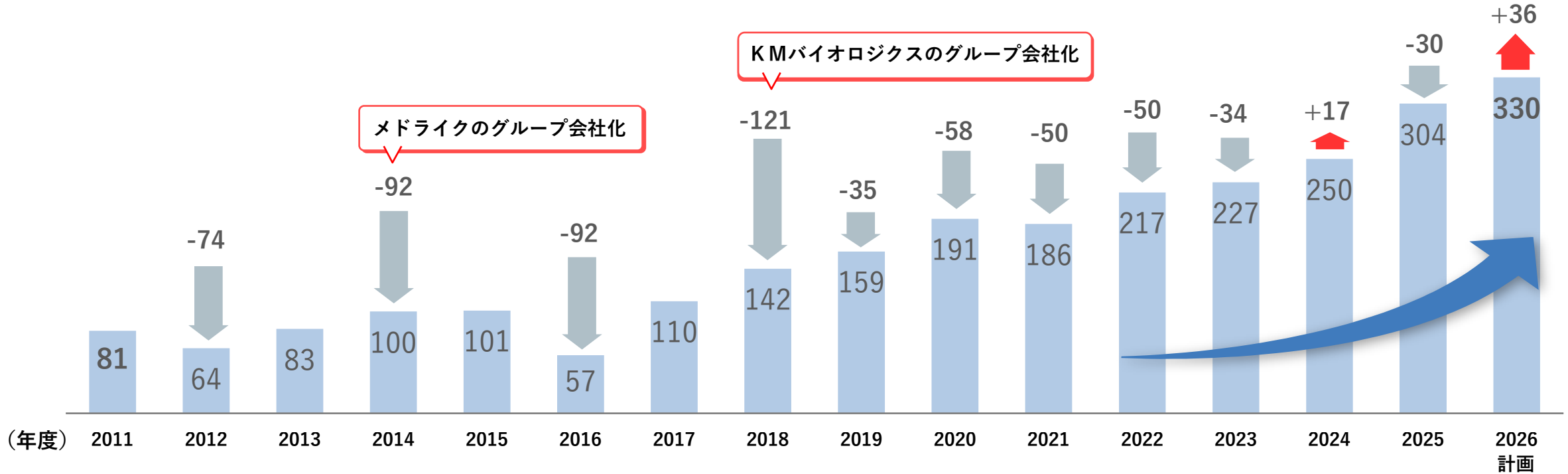


※収益認識基準適用前売上高

医薬品 | 営業利益の推移

- 抗菌薬の供給や感染症予防などの社会課題解決に資する事業で成長を継続
- 薬価改定の影響を受けにくい製品で安定収益基盤を構築

(億円) ■ 営業利益 ▼ 薬価改定影響 ▲ 薬価改定影響



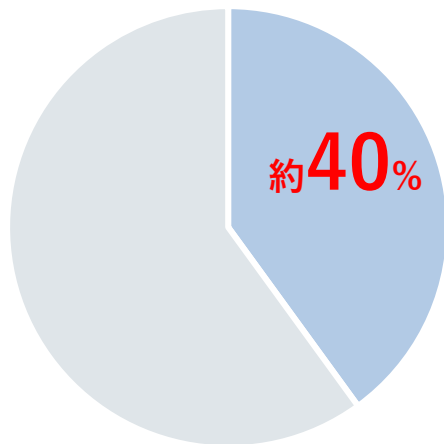
医薬品 | 国内事業、ワクチン・動物薬事業

● 安定基盤の感染症領域と新規発売品の両輪で拡大

基礎的医薬品の売上比率上昇！

- 薬価が上昇した「スルバシリン」「タゾピペ」などの注射用抗菌薬や免疫グロブリン製剤の貢献により、基礎的医薬品の売上比率は年々上昇。安定供給に取り組み、数量増とシェア拡大を追求

25年度国内事業売上高に占める
基礎的医薬品の割合

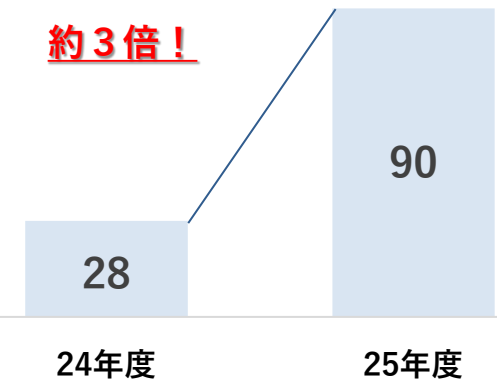


新薬「レズロック」や「ボルズィ」で成長を加速

- 「レズロック」：造血幹細胞移植後の慢性移植片対宿主病を効能・効果として24年5月に日本国内で発売
- 「ボルズィ」：大正製薬と共同販売する不眠症治療薬。25年11月発売。臨床成績を中心に普及し、成長を加速

レズロック売上高推移
(億円)

約3倍！



ワクチン接種向上の取り組みを推進

- ワクチンリテラシー向上につながるコミュニケーション施策を継続

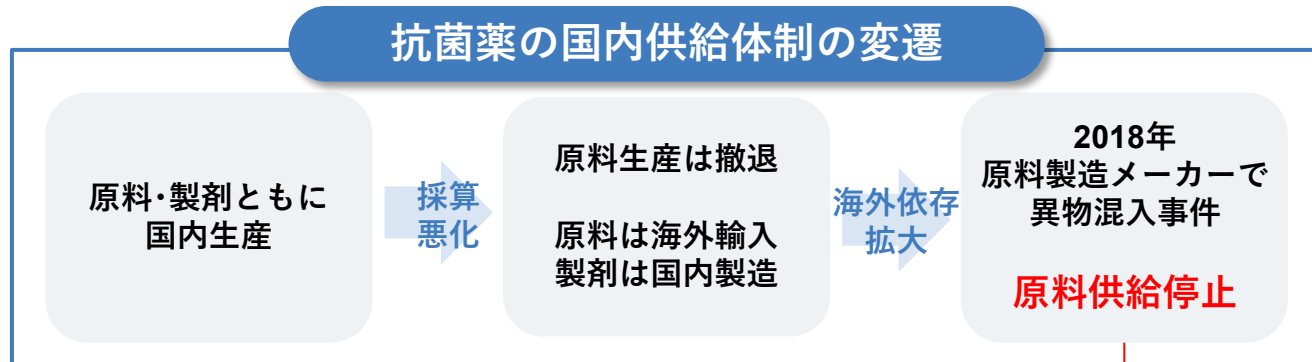


WEBサイト「やさしい感染症ガイド」

医薬品 | 抗菌薬の国内安定供給体制構築

● ペニシリン生産に適した条件を国内で唯一有する岐阜工場の生産設備を強化

抗菌薬の国内供給体制の変遷



国家戦略として国産化を決定
政府による補助金拠出などの財政支援を受け推進



岐阜工場



165kL発酵槽
(ペニシリン原料培養用)

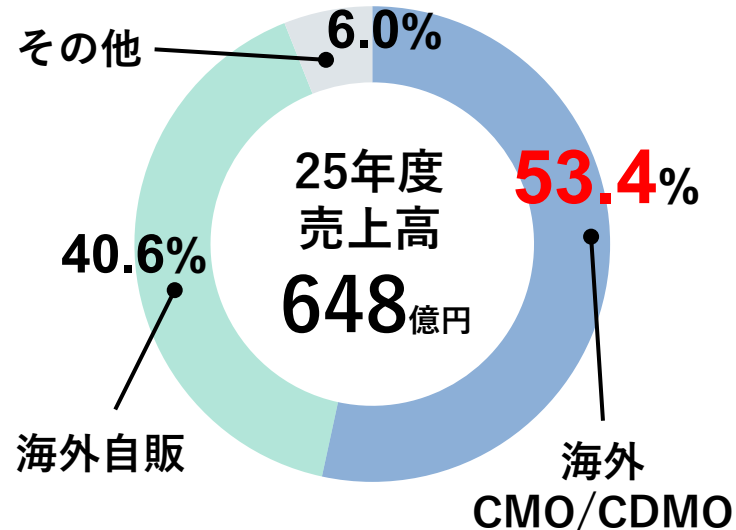
生産設備構築スケジュール

21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度～
実験棟構築		実生産設備構築		25年12月、抗菌薬原料の実製造開始	26年6月から無菌化のための施設を建設開始予定。28年頃から無菌化した原薬供給へ
	実証プラント構築				

医薬品 | 海外：CMO/CDMO事業やワクチンの海外展開が成長ドライバー

- CMO/CDMO事業は海外売上の50%以上を占め、今後も安定成長を見込む
- 今後はワクチンの海外展開拡充を目指す

海外事業 売上高



- CMO/CDMOとは
- ・ 医薬品の研究・開発から製造までを受託する事業
 - ・ 海外CMO/CDMO売上高年平均成長率
(23年度-26年度計画)

+約10%

ワクチンの海外展開

Serum Institute of India社と日本脳炎ワクチンの開発・製造に関する技術提携を行い、最初の目標を達成
(26年4月28日発表)

医薬品 | 将来の成長基盤となる開発パイプラインの推進

● 海外需要が見込まれる開発パイプラインが充実

レズロック（ベルモスジルメシル）

- 日本とアジア12か国で開発及び販売する権利を保有
- 24年11月の韓国に続き、26年3月には台湾・タイで販売開始
- 26年4月に国内小児P1/2試験を開始

OP0595（ナキュバクタム）

- 日本政府の支援を受けて開発中の薬剤耐性（AMR）対策に向けた新規β-ラクタマーゼ阻害剤
- 25年12月に日本での製造販売承認を申請
- 市場性のある国・地域をターゲットに申請準備中

KD2-396（6種混合ワクチン）*国内のみ

- 26年3月に国内P3試験を開始

KD-382（デング熱ワクチン）

- 25年8月に、成人および小児を対象としてP2試験をタイで開始

LC16「KMB」（Mpoxワクチン）

- 日本政府からコンゴ民主共和国に寄贈された300万ドーズのうち、これまでに約150万ドーズが接種
- 安全性と有効性に関する実地データを収集中

新規事業 | 食と薬のシナジー事業の創出

- 強みである“菌”や“カカオ”などの素材を活かした新規事業を計画

新規事業例：がん治療サポート食事療法への可能性検討

➤ R-1 EPSによる免疫チェックポイント阻害薬(ICI)治療効果増強研究の進捗

進捗状況

- 基礎研究や健常人対象試験で確認していた結果とメカニズムを、肺癌患者を対象とした臨床研究でも確認
- 140カ国以上、6万人を超える会員を擁する世界最大の癌学会である米国癌学会で発表し、事業化に向けてエビデンス構築と共創可能性の探索を着実に推進

持続的な企業価値向上に向けて

- ROEを最重要指標とし、海外事業・新規事業に注力して利益成長を目指す
- 自己資本比率は50-55%を目安に最適化

ROEを
早期に **10%**水準に回復

10-15%レンジ

Step 1

Step 2

35年度

26年度
構造改革先行

25年度

ROE **4.6%**

※中国減損影響除くROE 7.1%

海外

5%

25年度
営業利益
構成比

国内

海外 + 新規

30%

35年度
営業利益
構成比

国内

営業利益成長率

1桁台半ば以上
(年平均)

本日の内容

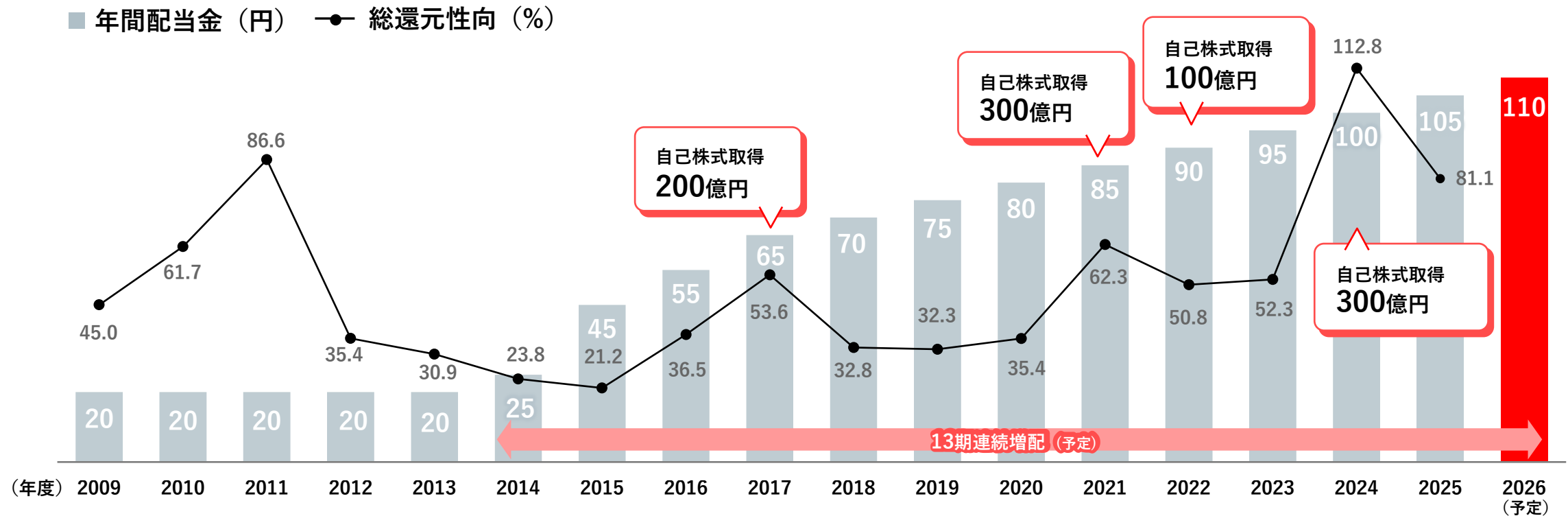
1. 基本情報

2. 成長戦略

3. 株主還元

株主還元強化

- 2026年度も増配を予定、13期連続の増配
- 株主還元方針：総還元性向50%以上、継続的な増配、機動的な自己株式取得



優待制度

- 日頃のご支援、ご愛顧に感謝し、株主さまへご優待品をお届け



参考
2025年3月期の優待品
(1,000株以上5,500円相当)

ご所有株式数	優待品
100株以上	1,500円相当
200株以上	2,500円相当
1,000株以上	5,500円相当

- 100株以上の株式をご所有の株主さまを対象に、ご優待品（明治グループ製品詰め合わせ）を10月末ごろにお届け（基準日3月31日）
- 株主さまのご意志により、同等のグループ製品を福祉団体などへご寄贈いただくことも選択できます

ここがポイント！

- ① 明治グループおススメ商品を、毎年厳選して詰め合わせ
- ② 地域限定品など、手に入りにくい商品も詰め合わせ

長期保有株主さまへの優待制度導入

- 3月末日の当社株主名簿に記載または記録された株主さまのうち、100株以上を継続して3年以上保有いただいている株主さまが対象
- 優待品とあわせて10月末ごろにお届け予定

ご所有株式数	優待品	
	株式保有3年未満	株式保有3年以上
100株以上	1,500円相当	左記優待品 長期保有 感謝BOX
200株以上	2,500円相当	
1,000株以上	5,500円相当	

株主さま向けイベントの実施

- 工場見学と食育セミナーの株主さま特別プログラムを実施
- 2026年8月に坂戸工場の見学会を開催予定



25年3月12日 愛知工場見学会



25年8月20日 坂戸工場見学会



26年3月30日 大阪工場見学会



健康にアイデアを meiji

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。